

平成20年度前期授業評価アンケート結果報告

1. 趣旨

極域科学専攻が開講している授業科目の優れた点、問題点、改善すべき事項等について、学生の意見や意識を把握し、カリキュラムや授業方法等の教育課程の改善に資するため、授業評価アンケートを実施する。

2. アンケート実施方法

極域科学専攻生にアンケート用紙を個別配布（pdfで配布）し、電子データで回収。

3. 回答率等

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| 1) 前期開講科目数 | 10科目（ただし極域科学特別研究、極域科学特別演習は除く） |
| 2) 履修者数 | 9名 |
| 3) 回答人数 | 9名 |
| 4) 回答数 | 18件 |
| 5) 回答率 | 100.0%（回答数（18）／{各授業科目×受講者数(18)}×100） |

4. 分析

以下、項目毎に簡単に分析する。

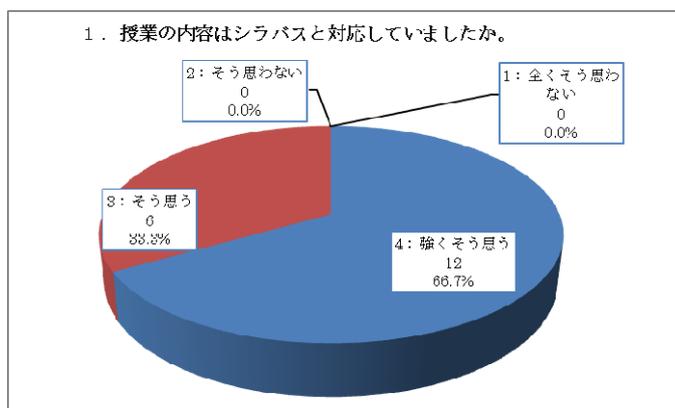
評価基準は各項目共通で次のとおり

4：強く思う 3：そう思う 2：そう思わない 1：全くそう思わない

なお、無回答及び該当無しという回答については、集計の対象からは除外した。

問1. 授業内容はシラバスと対応していましたか。

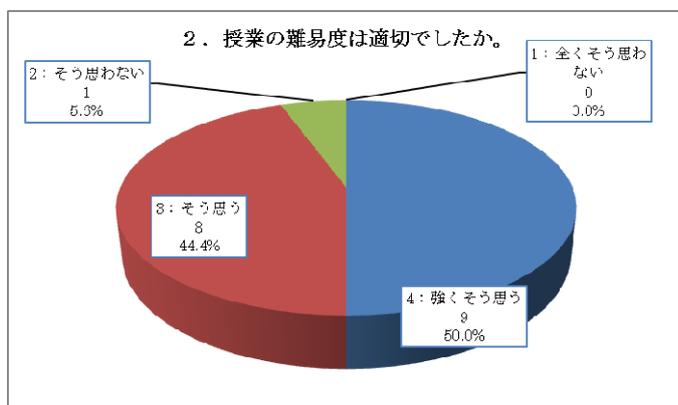
4：12件 3：6件 2：0件 1：0件 無回答：なし 【平均 3.67】



4と3をあわせて18件、100%であった。授業内容はシラバスと対応しており、また、無回答もないことから、シラバスの内容も周知できていると考えられる。

問2. 授業の難易度は適切でしたか。

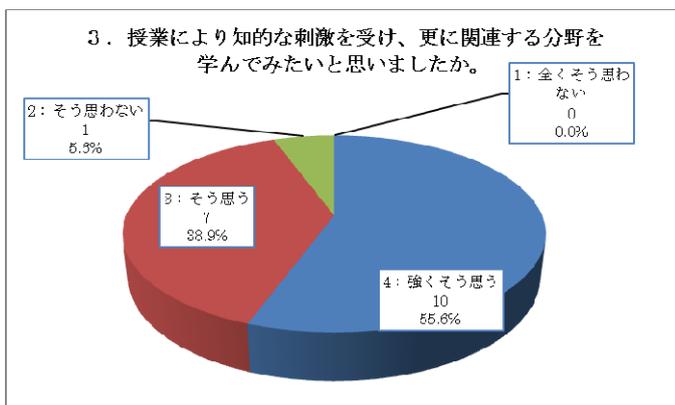
4 : 9件 3 : 8件 2 : 1件 1 : 0件 無回答 : なし 【平均 3.44】



4と3をあわせて17件、94.4%であった。授業の難易度は適切だったといえるが、H19年度前期(平均3.80)との落差が、今回のアンケート中、一番大きいため、今後の工夫を要すると考える。

問3. 授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。

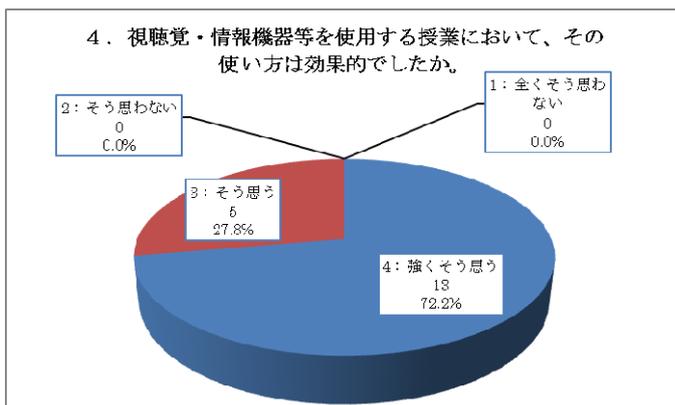
4 : 10件 3 : 7件 2 : 1件 1 : 0件 無回答 : なし 【平均 3.50】



4と3をあわせて17件、94.4%であった。十分に知的な刺激を受ける内容であったと考える。

問4. 視聴覚・情報機器等を使用する授業において、その使い方は効果的でしたか。

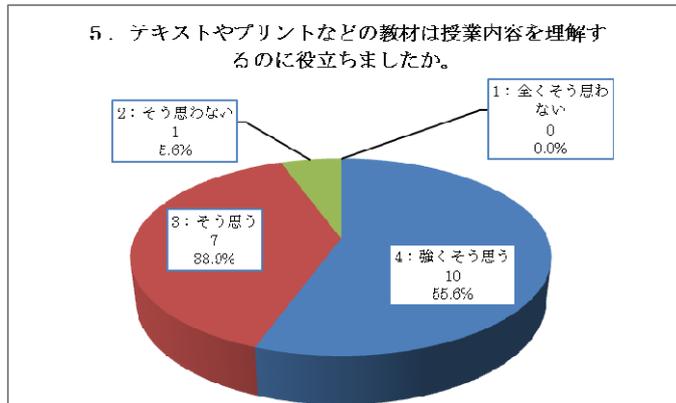
4 : 13件 3 : 5件 2 : 0件 1 : 0件 無回答 : なし 【平均 3.72】



4と3をあわせて18件、100%であり、効果的だったと考える。H19年度前期の結果が4と3をあわせて88.5%であったことから、改善されていると考えられる。

問5. テキストやプリントなどの教材は授業内容を理解するのに役立ちましたか。

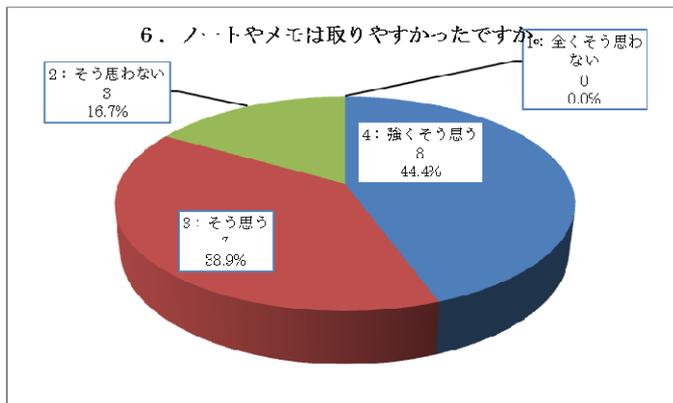
4 : 10件 3 : 7件 2 : 1件 1 : 0件 無回答 : なし 【平均 3.50】



4と3をあわせて17件、94.4%であり、効果的だったと考える。

問6. ノートやメモは取りやすかったですか。

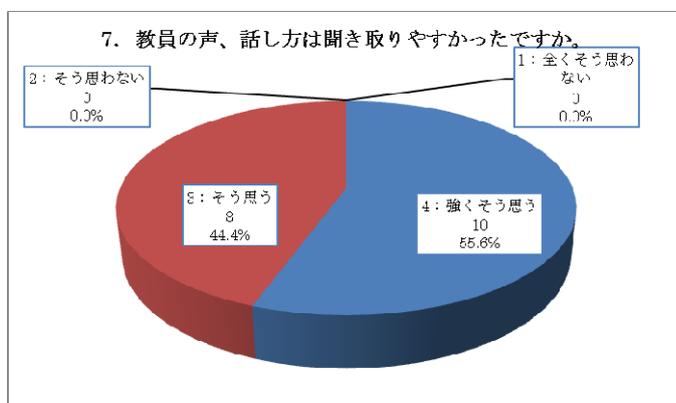
4 : 8件 3 : 7件 2 : 3件 1 : 0件 無回答 : なし 【平均 3.28】



4と3をあわせて15件、83.3%であり、効果的だったと考えるが、2の否定的意見が3件(16.7%)、平均3.28と、今回のアンケート中、一番低い結果となったため、検討の必要があると考える。

問7. 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。

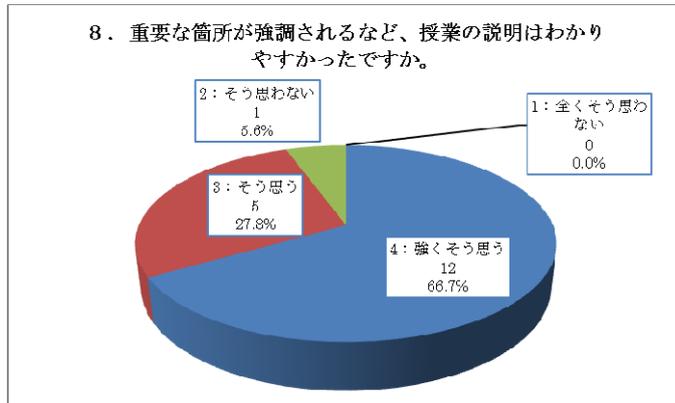
4 : 10件 3 : 8件 2 : 0件 1 : 0件 無回答 : なし 【平均 3.56】



4と3をあわせて18件、100%であり、十分聞き取りやすかったと考える。

問 8. 重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。

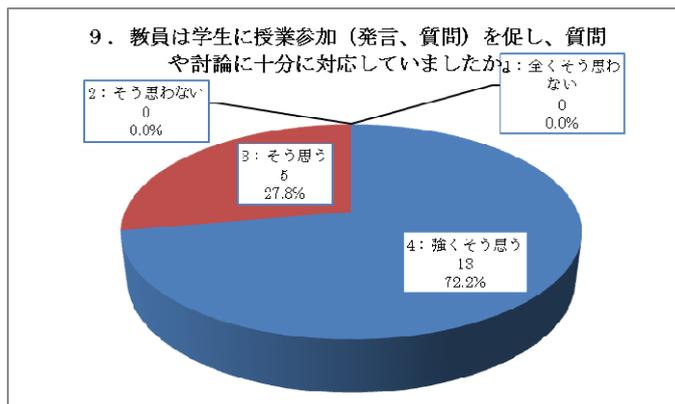
4 : 12 件 3 : 5 件 2 : 1 件 1 : 0 件 無回答 : なし 【平均 3.61】



4 と 3 をあわせて 17 件、94.4% であり、説明は十分にわかりやすかったと考えられる。

問 9. 教員は学生に授業参加（発言、質問）を促し、質問や討論に十分に対応していましたか。

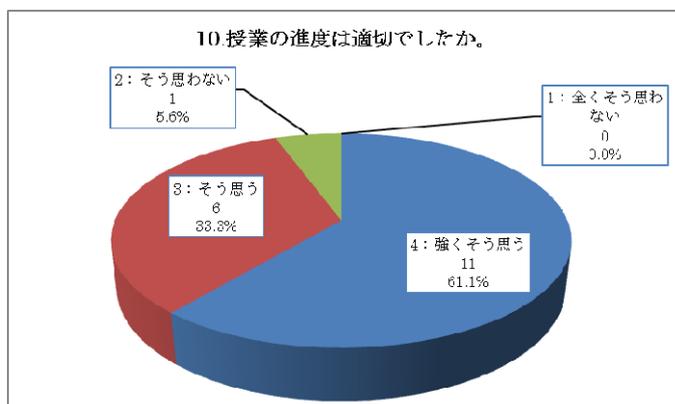
4 : 13 件 3 : 5 件 2 : 0 件 1 : 0 件 無回答 : なし 【平均 3.72】



4 と 3 をあわせて 18 件、100% であり、十分に対応していたと考えられる。

問 10. 授業の進度は適切でしたか。

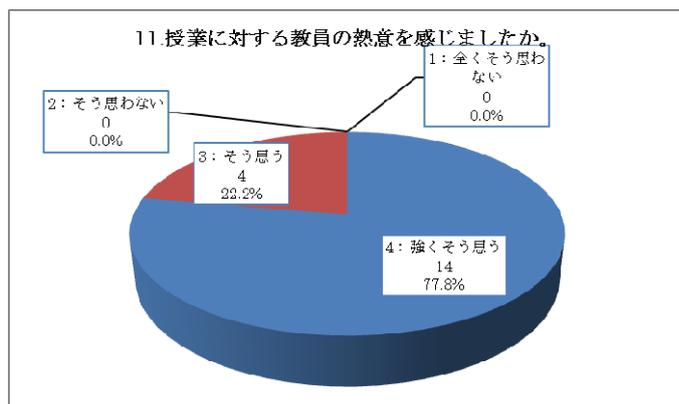
4 : 11 件 3 : 6 件 2 : 1 件 1 : 0 件 無回答 : なし 【平均 3.56】



4 と 3 をあわせて 17 件、94.4% であり、進度はほぼ適切だったと考えられる。

問 11. 授業に対する教員の熱意を感じましたか。

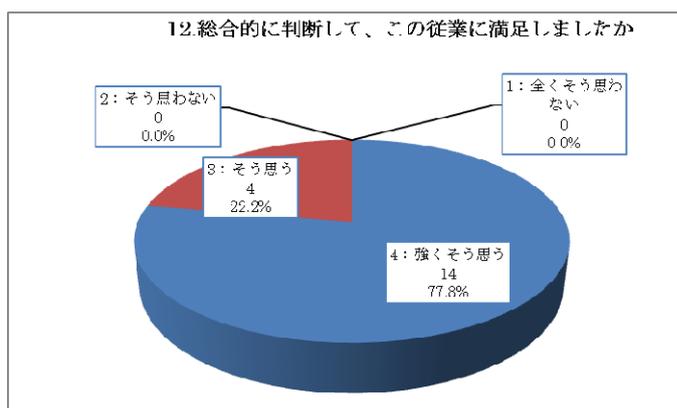
4 : 14 件 3 : 4 件 2 : 0 件 1 : 0 件 無回答 : なし 【平均 3.78】



4と3をあわせて18件、100%であり、十分に熱意が感じられたと考えられる。

問 12. 総合的に判断して、この授業に満足しましたか。

4 : 14 件 3 : 4 件 2 : 0 件 1 : 0 件 無回答 : なし 【平均 3.78】



4と3をあわせて18件、100%であり、十分に授業に満足していると考えられる。

問 13. この授業で良かった点、また改善すべき点、その他特記事項があれば、記入してください。

回答数 3 件

- いわゆる講義形式で、わかりやすく説明をしていただきました。
- 英書を用いた輪読の形式の授業でした。自分の順番の時は大変でしたが、質問にも詳しく答えていただきとてもためになりました。
- 改善すべき点：専門性の強い授業をする先生とそうでない先生と極端である。先生の自己満足になりがちな授業だと感じた。興味のわくような授業でなければ、修士・博士にとっては意味がない。(もちろん、興味を引く授業をしていただいている先生もいるが)もう少し方向性のある授業編成を期待する。

4. まとめ

(1) 授業内容について（問1～問3）

いずれの項目においても、4及び3の肯定的な評価が90%を越える結果となり、良い結果だと考えられる。

ただし、問2（授業の難易度）（平均 3.44）について、H19 年度前期（平均 3.80）と比較すると、今回のアンケート結果中、落差が一番大きいため、検討を要すると考えられる。

(2) 授業方法について（問4～問11）

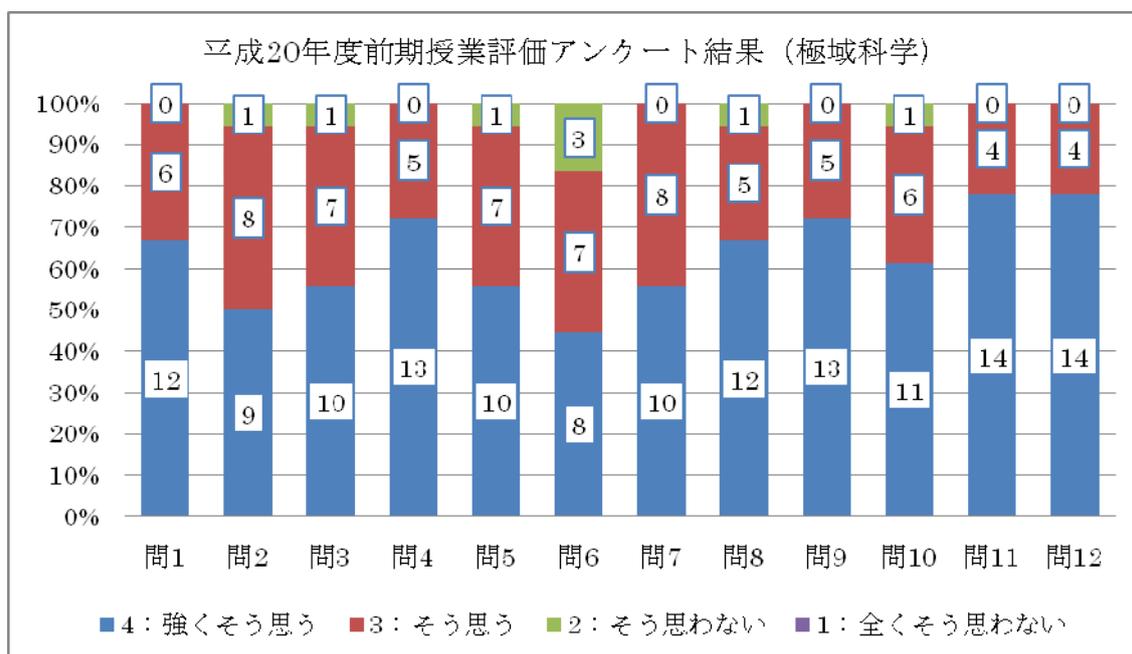
H19 年度前期、特に評価の低かった問6（ノートやメモは取りやすかったか。）について比較すると、H19 年度前期の平均 3.34 に対し、今回は平均 3.28 と、さらに下回っており、メモを取る事への配慮について、今後も検討を要すると考えられる。

また、H19 年度、今後の検討を要すると思われた問4（視聴覚・情報機器の効果的な使用方法）や問10（授業の進度）については従来のアンケート結果中、一番高い平均値が出たため、改善の傾向にあると考えられる。

(3) 総合評価（問12～問13）

問12の4及び3の肯定的な評価は100%で、十分に満足できる授業を提供できたと考えられる。

問13ではほとんどが肯定的な意見であるが、授業内容についての意見があったことから、さらに工夫を要すると考えられる。

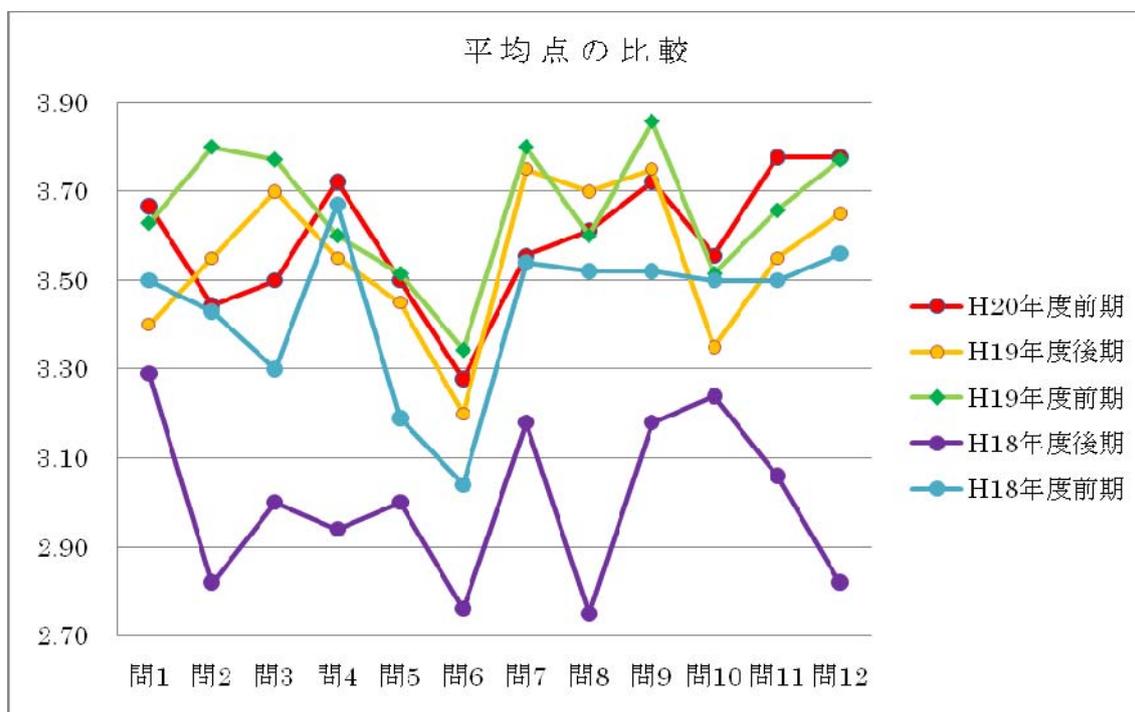


(4) 平成19年度前期授業評価との比較及びまとめ

昨年度、改善の必要ありとされた視聴覚・情報機器の効果的な使用方法（問4）や授業進度について（問10）、従来のアンケート結果中、一番高い平均値が得られたため、改善の傾向にあると考えられる。

また、昨年度、改善の傾向が見られた問6（ノートやメモを取る事への配慮）については、昨年度よりやや低下しており、今後のさらなる配慮が必要と思われる。

今年度は問2（授業の難易度）について、昨年度との落差が大きい。今後の工夫が必要と思われる。



5. 今後の対応

平成20年度後期分についても同様のアンケートを実施し、評価を行う予定。

今回の調査結果については、確定し次第、専攻委員会及び学生へ回付する予定。また、極域科学専攻HPにも掲載予定である。